

令和5年度「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」実施報告

令和5年9月28日、大台ヶ原・大杉谷のトウヒやウラジロモミをシカの食害から守るために森林再生応援団に応募した37名の方々が、稚樹を囲う柵や成木の根本を巻くネットを設置しました。



大台ヶ原（正木峠）の景色

大台ヶ原の正木峠から正木ヶ原にかけて、かつては鬱蒼とした森林で林床はコケに覆われていました。しかし、昭和30年代の台風による大規模な風倒被害の後、ミヤコザサの分布拡大とこれを餌とするニホンジカの個体数の増加により、現在はササ原に枯木や倒木という風景が広がっています。

林野庁三重森林管理署と環境省吉野熊野国立公園管理事務所は、これを再生するためのボランティアを広く募集し、「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」を開催しました。

なお、この行事は、平成28年に山の日制定記念及び吉野熊野国立公園指定80周年記念イベントとして両機関が共催して以来、台風等により中止した年を除いて毎年開催しており、今回で6回目となります。平成28年以前は両機関それぞれの取組があり、三重森林管理署では、平成10年からネットや防護柵の設置を始め、平成12年からはボランティアの方々にもご協力をいただけてきました。



集合写真（大台ヶ原ビジターセンター前にて）

当日は天候に恵まれ晴天のなか、大台ヶ原ビジターセンター前にて開会式、集合写真の撮影を行った後、5人程度一組の8班に分かれて出発しました。



移動途中の林内の様子（上道にて）

30分程度林内を歩いて富士見汁の展望デッキに到着し、遠く熊野灘を眺めながら、三重森林管理署、吉野熊野国立公園管理事務所、大杉谷登山センター山岳救助隊から近年の大台ヶ原・大杉谷の様子や自然再生の取り組みについて紹介を受けました。

その後、体力に自信のある方は日出ヶ岳の山頂まで登り、そうでない方は展望デッキでゆっくりと、それぞれ持参した昼食をとりました。



集合写真（富士見辻の展望デッキにて）

午後からは、トウヒ・ウラジロモミの稚樹の周りを囲う植生保護柵設置班と、成木を剥皮被害から守るネット巻き班に別れて作業場所まで移動しました。職員らから説明を受けた後、ササ原や倒木の中での活動にも徐々に慣れてきて、1時間程度で計画していた作業を終えることができました。



植生保護柵設置作業（大杉谷）



ネット巻き作業（大台ヶ原）

作業を終えた参加者からは、「自分達が設置した柵の中のトウヒが成長した姿を見るのが楽しみ。」「また見に来たい。」「取り組みや植生について大変勉強になった。」というような感想をいただきました。